

平成 24 年 10 月 24 日～12 月 10 日
市立図書館特別展示室
三田市生涯学習支援課

友好都市交流事業 展示解説パンフレット

海の九鬼・山の九鬼 ~鳥羽と三田を結ぶもの~

三田地域の江戸時代の領主である九鬼氏は志摩国鳥羽（現在の鳥羽市）から移ってきました。ここでは、鳥羽市と三田市の友好都市交流事業として、両市に所在する九鬼氏に関わる資料を展示します。九鬼氏は、もともとは紀伊国牟婁郡九鬼浦（現在の三重県尾鷲市）の出身と言われます。その後、志摩国英虞郡波切村（現在の三重県志摩市）に移りました。

志摩統一と九鬼嘉隆



①九鬼嘉隆肖像画
(複製展示)
(鳥羽市常安寺所蔵)

志摩国に移ってからの九鬼氏は周辺の武将と争いながら勢力を増し、紆余曲折を経て九鬼嘉隆（写真①）の時に志摩一国を統一しました。この間に織田信長に仕え始めた嘉隆は水軍の将として頭角を現わしていきます。特に天正6年（1578）の大坂木津川口で鉄甲船を率いて毛利水軍に勝利した戦いで、九鬼水軍の名は天下に響きわたりました。信長の死後は豊臣秀吉に従い、九州島津攻めや小田原攻めなど天下統一の戦いに参加します。

また、このころ鳥羽城（写真②）の築城にかかったと考えられます。現在発掘調査がすすめられる鳥羽城からは、九鬼家の家紋である「七曜紋」の瓦（写真③）に加え、天目茶碗やアワビの殻などが出土し、当時の暮らしを窺い知ることができます。



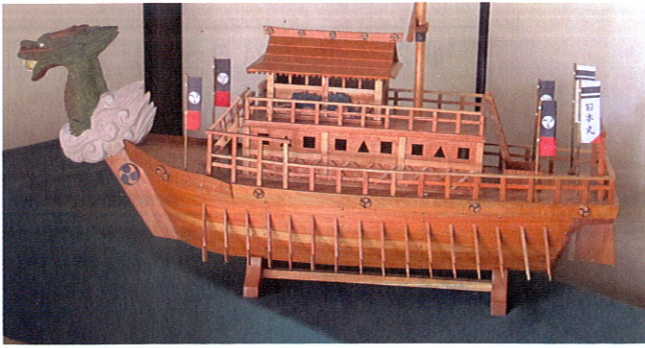
②志摩国絵図にみえる鳥羽城
(三田市川面氏所蔵)



③鳥羽城出土瓦
(鳥羽市教育委員会所蔵)

水軍の戦い

秀吉による朝鮮出兵の際、嘉隆は巨大な軍船をつくりました。軍船は、秀吉から「日本丸」と名付けられました。（写真④）ここでは、日本丸のものと伝える板戸（写真⑤）や、九鬼氏の家臣が戦場でもちいたという袖印・革製陣笠・胴丸甲冑などを展示します。（写真⑥～⑧）



④日本丸模型（三田市所蔵）



⑤伝日本丸板戸（鳥羽市教育委員会所蔵）



⑥九鬼水軍の袖印
（鳥羽市教育委員会所蔵）



⑦革製陣笠
（鳥羽市教育委員会所蔵）

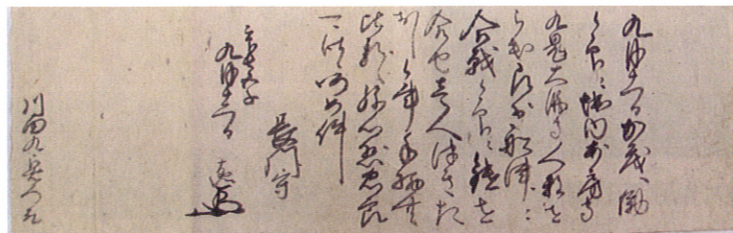


⑧胴丸甲冑
（鳥羽市教育委員会所蔵）

嘉隆とその子守隆

嘉隆が隠居したあとは、息子の守隆が家督を継ぎました。関ヶ原の戦いでは、守隆は東軍につきましたが、嘉隆は西軍につき、当時守隆の居城となっていた鳥羽城を乗っ取り守隆の軍と戦います。写真⑨は鳥羽湾加茂川河口の戦いでの家臣の働きを称讃する守隆の書状です。

東軍の勝利を知った嘉隆は、答志島に逃れます。守隆は徳川家康に助命を嘆願し、認められますが、嘉隆はその知らせを聞く前に自害しました。



⑨九鬼守隆から家臣にあてた書状（三田市川面氏所蔵）

三田へ

守隆の跡継ぎをめぐる、三男の隆季と五男の久隆のどちらを支持するかで家中を二分する争いが起きました。最終的には幕閣の裁定により久隆の跡目が決まりましたが、寛永 10 年（1633）3月、久隆は 3 万 6 千石で摂津国三田へ、隆季は 2 万石で丹波国綾部（京都府綾部市）へと転封になります。そして、三田と九鬼氏のかかわりが始まるのです。ここでは、三田藩の陣屋跡からの出土遺物や家臣の家に伝わった資料などを展示しています。

※本展示の開催にあたりご協力いただいた資料所蔵者のみなさんに深く感謝します。